

日 時：2018 年 12 月 26 日（水）15:35 - 17:00

場 所：東京医科歯科大学 M&D タワー16F 小会議室 3

出席者：

【学会連合理事】

| | |
|-----------|------------|
| 応用統計学会 | 中西寛子 |
| 日本計算機統計学会 | 足立浩平 |
| 日本計量生物学会 | 大橋靖雄 |
| 日本行動計量学会 | |
| 日本統計学会 | 赤平昌文, 西郷 浩 |
| 日本分類学会 | 栗原考次 (理事長) |

【連合大会実行委員会】 竹村彰通 (2019)

【連合大会運営委員会】 笛田 薫 (2018) , 中川重和 (2019)

【連合大会プログラム委員会】 桜井裕仁 (2019)

【JJSD 編集委員長】 青嶋 誠

幹事 石岡文生, 酒折文武, 富田 誠

連合理事会・報告

1. JJSD の現状について

青嶋編集委員長より、JJSD の現状について次の通り報告があった。

- ・ 2018 年 12 月に Vol.1 No.2 を発刊した。論文数は、全部で 9 本（原著 8 本，No.1 に出た論文の修正 1 本）となり，そのうち海外からの投稿は 2 本。総ページ数は 189 で，目標と比べると 60 ページほど少なかった。
- ・ 参考までに，Vol.1 No.1 の論文数は全 13 本（原著 2 本，特集 9 本，説明 2 本（そのうち海外からの投稿は 6 本）），総ページ数は 256 であった。ダウンロード数も非常に良く，Springer から思った以上の好発進との評価。
- ・ Vol.1 No.2 の論文数が少なかった理由は，論文のハンドリングに時間が掛かっているために，予定していた特集を Vol.2 No.1 に回したため。なお，この特集のためのプロモーションは十分に行われていたが，JJSD にはまだインパクトファクターが無い事などから投稿がなかなか集まらず時間を要した。
- ・ 2019 年 6 月発行予定の Vol.2 No.1 の現状として，掲載が決定しているものは 6 本（原著 3 本，Vol.1 No.2 から回した特集 3 本），レビュー中の論文が 16 本。
- ・ 論文投稿数はこれまで通算 120 本であり，月 8 本のペース。Accept 率は現状で 27%。
- ・ 今後の軌道修正として，次の方策を行った。
 - 予定していた特集の掲載を半年ずらす。投稿期限は変えず、ハンドリングを半年から 1 年に延ばすことで余裕を持たす。

■ survey 論文の受付を開始した。

・ 1年間やってみての問題点について次の様な報告があり、その対応策について議論がなされた。

■ ハンドリングは引き受けたものの審査に一切回さず、著者、coordinating editor (CE), Springer の事務局からの催促に対しても反応しないといった associate editor (AE) が若干名いる。

⇒ CE に伝えて、問題のある AE に今後は論文を回さない様にし (すでにそうなっている), 4月の理事会で解任するかどうかを決定する。

■ CE にもハンドリングが滞っている方がいる。

⇒ 編集委員長からの連絡にも返信がなく、査読過程がうまく運営できていないことから、選出学会に依頼し、2019年1月をもって新しい CE を選出することとなった。

■ 日本計算機統計学会選出の CE の坂本委員については、他雑誌との兼ね合いで、交代の申し出が出ている。

⇒ 坂本委員に変わる新しい CE を早急に選出してもらう必要がある。

2. 科学研究費「研究成果公開促進費」の申請について

・ 栗原理事長より、JJSD に係る費用捻出のため科研費を申請中であり、また、申請は法人である必要がある事から、日本統計学会から申請頂いた旨の報告があった。

・ 西郷理事より、申請に際し、インパクトファクター獲得に係る事業を今後展開してくための費用の必要性をアピールした旨の補足があった。

3. 月間「統計」への寄稿について

栗原理事長より、2018年度統計関連学会連合大会の内容をまとめた記事を月間「統計」に寄稿し、その原稿料については連合の収入に組み入れる旨の報告があった。

4. 統計関連学会連合の広報活動について

栗原理事長より、連合の広報活動について、web サイトの充実等、広報委員会を中心に引き続き行っていく旨の説明があった。

5. その他

・ 栗原理事長より、前回理事会から本日までに、次のイベントに後援したことが報告された。

■ CREST・さきがけ・AIMaP 合同シンポジウム「数学パワーが世界を変える 2019」

(2018年12月11日 受諾)

■ 数学と諸分野の連携にむけた若手数学者交流会 (2018年12月11日 受諾)

・ 栗原理事長より、次回の理事会・組織委員会は、日程調整の上、4月に開催する旨の報告があった。併せて、旧理事による理事会の後に、理事長改選後の新たな体制にて理事会を開催する旨の説明があった。

連合理事会・議案

1. JJSD について（審議事項）

栗原理事長より、JJSD に関して以下の通り依頼・提案があり、審議の結果、承認された。

- ・ 引き続き、青嶋 JJSD 編集委員長に、次期の編集委員長をお願いする。関連して、青嶋 JJSD 編集委員長より、次の要望があった。
 - 各学会から選出された CE は、問題のある方を除き、できる限り継続してほしい。
 - 統計関連学会連合の web サイトのメニューに JJSD を追加する等、もっと宣伝してもらいたい。
⇒ 広報委員会でも対応。
- ・ 発刊に係る年間費用（2,500,000 円＋消費税）の次年度の支払いについて、本年度と同じく、日本統計学会から 2,000,000 円、日本計算機統計学会から 500,000 円、消費税は連合が負担する。

2. その他

- ・ 栗原理事長より、以下の通り依頼・提案があり、審議の結果、承認された。
 - 連合サーバー使用料として、連合大会の会計から 10 万円を連合本体に支出する。
 - 組織委員会の運営費として、連合大会の会計から 70 万円を連合本体に支出する。

組織委員会・議案

1. 2018 年度連合大会報告及び決算

- ・ 笹田運営委員長（2018 年度）より、会計報告・決算報告が提出され、審議の結果、原案の通り承認された。また、会計および運営に関して以下の通り報告及び議論があった。
 - 収入が予算から 150 万円増えている。これは、チュートリアル参加者は減ったにもかかわらず、大会参加者が大幅に増えたこと、および広告収入が増えたことなどが要因である。
 - 支出についても 150 万円増えているが、これは関連する会議に出席する委員の旅費補助を厳密に行ったことなどが要因である。
 - 予備費は昨年に比べ約 60 万円減った。
- ・ 決算報告書の「支出 - その他」項目の「サーバー使用料」の記載について、誤解を招く恐れがあることから、来年からは「連合サーバー使用料」と記載する。
- ・ 中央大学からの寄付金に関する報告を速やかに行う。必要な領収証等は、笹田委員長から川野運営委員（会計担当）に依頼する。

2. 2019 年度連合大会各副委員長及び委員について

- ・ 栗原理事長より、2019 年度の運営副委員長（2020 年度運営委員長）に藤野友和氏（福岡女子大学）、プログラム副委員長（2020 年度プログラム委員長）に富田誠氏（東京医科歯科大学）に担当頂きたい旨の提案があり、承認された。また、各学会からの選出委員について承認された。
- ・ 2019 年度運営委員会
委員長：中川重和（岡山理科大学）

副委員長：藤野友和（福岡女子大学）

応用統計学会：山口誠一（立教大学）

日本計算機統計学会：阿部貴行（横浜市立大学），下川朝有（東京理科大学）

日本計量生物学会：上村鋼平（東京大学），三枝祐輔（横浜市立大学）

日本行動計量学会：登藤直弥（筑波大学）

日本統計学会：荒木万寿夫（青山学院大学），河田正樹（徳山大学）

日本分類学会：土田 潤（東京理科大学）

・ 2019 年度プログラム委員会

委員長：桜井裕仁（大学入試センター）

副委員長：富田 誠（東京医科歯科大学）

応用統計学会：元山 斉（青山学院大学），二宮嘉行（統計数理研究所）

日本計算機統計学会：田澤 司（(株)パーキンエルマージャパン），廣瀬 慧（九州大学）

日本計量生物学会：安藤宗司（東京理科大学），長谷川貴大（塩野義製薬(株)）

日本行動計量学会：井本智明（静岡県立大学）

日本統計学会：小巻泰之（大阪経済大学），福地純一郎（学習院大学）

日本分類学会：山本倫生（岡山大学）

・ 2019 年度実行委員会

委員長：竹村彰通（滋賀大学）

副委員長：笛田 薫（滋賀大学）

委員：和泉志津恵（滋賀大学），金谷太郎（滋賀大学），熊澤吉起（滋賀大学），姫野哲人（滋賀大学），藤井孝之（滋賀大学），松井秀俊（滋賀大学）

- ・ 運営委員およびプログラム委員の委員長推薦による委員追加については、基本的には承認することとし、各委員長から理事長に伝え、理事長から組織委員会に報告（メール審議）することを確認した。
- ・ 実行委員の追加については、組織委員会の承認は必要としないことを確認した。

3. 2019 年度連合大会運営方針について

2019 年度の連合大会の運営方針について、以下の通り情報共有、報告および議論がなされた。

- ・ チュートリアルセッションおよび市民講演会は、例年通り開催する。
- ・ 2018 年度に試験的に行った開会式およびプレナリーセッションについて、基本的には 2019 年度も開催する方向で考える。ただし、2018 年度にプレナリーセッションとして行った「Akaike Memorial Lecture」は隔年開催のため、2019 年度には行われない。
- ・ 次回の JSS-KSS-CSA は韓国で開催予定のため、2019 年度連合大会中に開催することは出来ない。
- ・ 企画セッションは、ほぼ例年通りのスケジュールで行う。関連して、AIMaP（数学協働プログラムの後継事業）に関連するセッションがあってもよいのでは、という意見があった。また、統計関連学会連合からのセッション、および若手の会主導のセッションについては現在のところ未定。4 月の組織委員会で方向性を決める。

- ・ コンペティション講演セッションは、例年通り開催する。現状、プログラム委員だけで審査員を賄うのは厳しいため（のべ40名程度必要）、2018年度は組織委員会の先生方にも審査を依頼した。可能であれば2019年度もその方針を維持したい。
- ・ 懇親会は9月11日(水)の夜に行う。琵琶湖の遊覧船（200名ほど）での立食パーティーを検討しているが、台風（や強風）が来ると中止。中止の場合は懇親会費の返金を予定している。
- ・ 運営委員の総数減について、協賛担当を減らすことでの対応を検討する。必要に応じて、アルバイトで賄う・派遣会社に依頼することも検討する。
- ・ 開催案内について、第1報は年明けなるべく早く、第2報（主に企画セッションの案内）は3月中旬、第3報は5月の連休明け、第4報は8月上旬に、それぞれ発行予定。Webページについては3月中旬の公開を目指す。
- ・ 学会業務委託について、2019年度も引き続きISSに依頼する予定。（3月に契約）
- ・ ホテルについて、早めに予約してもらおうよう告知が必要との話し合いがもたれた（駅前だけだと厳しい）。臨時バスを出すことを予定している。